

願成寺報

平成二十一年五月十日

〒四四〇・〇八二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

本堂改修落成慶讃・親鸞聖人七五〇回遠忌報恩大法会まで二十日を切りました。まだまだ準備することが沢山残っていて心配ですが、頑張って準備して参ります。五〇年に一度の大法会です。老若男女こそぞってお参り下さい。

● 当山御遠忌法会のテーマ

今後五〇年の寺の在り方を想い、大法会を勤めるに当たり、法会のテーマを考えました。左に記します。

どんな今であっても、そのままの尊さに目覚めるのが仏教だと思えます。しかし、我儘な私達は愚痴ばかりこぼして過ごしています。自分の力で目覚めることの出来ない私達(凡夫)には念仏が必要です。念仏には、私達の我儘を破る力があります。念仏して、このままの今を尊く受け止めた時、必ず温かい涙が流れます。『泣かない!』と頑張る自力の心の碎ける寺でありたいと願います。



努力は明日のため
念仏は今そのままのため
泣かないが止まる
願成寺



● 真宗各派の御遠忌テーマ

各派本山・寺院でも、それぞれ御遠忌を大切に、準備をしておられます。真宗教団連合のホームページ (<http://www.shin.gr.jp>) に掲載されている、各派本山の御遠忌テーマをご紹介します。私見を書きます。皆様はどのように戴かれますか？

『聖人のみもとに帰ろう』

真宗高田派

真宗学に難しい教科書が沢山あります。読破しないと駄目でしょうか？凡夫の念仏を特別なものにしてしまった…という反省が感じられます。もう一度原点に帰って、お念仏を戴き直したいということでしょう。木辺派・出雲路派・誠照寺派のテーマも同じように戴きます。

『世のなか 安穩なれ』

浄土真宗本願寺派

以前より高田派では「世のなか安穩なれ 仏法ひろまれ」をスローガンにしており、馴染み深い言葉です。安穩でない世相を見つめ、不平ばかりの私を見つめ、目覚めるべき事柄を問い直したい。…と戴きます。

『今、いのちがあなたを生きている』

真宗大谷派

「私のいのち」と考える所から「私」の孤立が始まっています。そして、「私ばかりが」と苦しくなります。このテーマは「逆さまだよ」と説いています。「いのち」を主に「私」を客に見つめ直すと、もっと広い世界が見えてきます。「今」「友」がそのまま尊くなってきました。印象深く心に残るテーマで、大好きな法語になりました。

佛光寺派・興正派・三門徒派・山元派のテーマも同じように戴きます。

『南無阿彌陀佛はわたしのいのち』

真宗佛光寺派

『いのち・つながり・よろこび』

真宗興正派

『伝えようまごころとやすらぎのお念仏』

真宗木辺派

『ただ・唯念仏して』

真宗出雲路派

『念仏ひとつくすくいのまん中にく』

真宗誠照寺派

『連続無窮』

真宗三門徒派

『みひかりにつつまれて』

真宗山元派

以上についての私見は、前出として略しました。

● 当山御遠忌の見どころ

今回の寺報は、御遠忌特集（号外）でお届けしています。少しでも賑やかに勤めたく思い、見どころを列記して、お誘いします。是非お参り下さい。

■ 法会の名称

『本堂改修落成慶讃・親鸞聖人七五〇回遠忌報恩大法会』

意味が伝わればいいや、と、法会の名称を不用意に使っておりませんでした。だんだん自分でも混乱してきました。右記を正式名称とします。違う名称で印刷したのも沢山ありますが、間違い探しをして、笑ったり、叱ったりして下さい。

・願成寺開山五〇〇年（一五二一年）

・当地移転一〇〇年（一九二一年）

・晋山（住職継承）式

・子供の得度披露

なども心の内に思いつつ、節目の大法会を勤めます。

■ 『釋悠亮』誕生

去る三月二十七日、本山にて十歳の息子が得度しました。

今回がデビュー法会となり、阿弥陀経・正信偈・文類偈を特訓中です。

逃げ回っていて、隙あらば…と今も考えている私からすると、変な子（偉い子？）だなと思います。

良い坊さんになりそうですが、

将来の夢は

蒸気機関車の機関助手です。

やれやれ。

やはり私と同様、

皆様に見守って頂き、お育て頂く必要がありそうです。



■ 二十九日（金）の行事について

● 初夜法要

二十名のお坊さんが声を合わせて、本山報恩講と同様に勤める、午後六時からのお勤め（初夜）がクライマックスになります。こんな法座は二度と出来ません。是非ご一緒にお勤め下さい。

● 法話（三河スーパージョウキ座・座長 椰野明仁師）

前回の寺報でもご紹介しました。親鸞聖人の御生涯を物語風にお話いただきます。一つ一つのエピソードの中に「念仏申しながら歩む」姿が顕れます。半日間、しっかり聞いてみませんか？
五木寛之さんの連載小説を読むための予備知識にもなります。寄席に来たつもりで座ってみて下さい。後悔しないと思います。

● お非時

これは坊守が頑張って作ります。
胡麻豆腐や飛竜頭を中心とした精進料理です。
前回の報恩講では、胡麻豆腐が柔らかくてプリンのようになっていました。
でも味はよかったです。
私も胡麻すりに大汗かいた甲斐がありました。
今回も頑張ります。お楽しみに。



● 供花

これも坊守が頑張って生けます。
御本前の前机に五具足を供えますが、お花を池坊で松の立花・一對とします。
一所懸命過ぎて少し困っています。
上手に出来ていたら褒めてあげて下さい。
いつか教室を始めたいと目論んでいます。
一緒に勉強して下さいる方はありますか？



■ 三十日（土）の行事について

● 庭儀式（稚児行列）

運動会と重なっている場合が多く、小学生が壊滅状態となっており、参加者の数で苦戦しております。現在は、可愛い幼児を中心に六十名程の参加となっています。もっと賑やかになると嬉しいです。御近所の子供さんのあるご家族に声を掛けてみて下さい。

また、お稚児さん達を祝福して頂きたいと思っております。

「行列に参加する」「沿道で旗を振る」など。

- ・ 雅楽の楽人さんを先頭に行進します
- ・ 本堂内でお参りします
- ・ きつと楽しい行列になります。盛り上がりつつ行きますように。



● 雅楽

豊橋雅楽愛好者衆『千里』の近藤泰史様にお願ひしました。庭儀式・満日中を通しての演奏を、六名の予定にて、快く引き受けて下さいました。

『千里』では、豊橋公園の三の丸会館にて教室を開いています。興味のある方はお尋ね下さい。インターネットでは『雅楽 千里』で検索できます。



● お非時

小さなお握りとお惣菜を仕出し屋さん頼みました。

● 満日中

二日間通しての法会のクライマックスです。

- ・ 真宗・親鸞聖人の教えに遇えたこと
- ・ 教えを伝え合う仲間のあること
- ・ 教えの殿堂が整ったこと

・ このままの『いのち』が尊く戴けたこと
などを近隣のお寺様や同行の皆様と共に慶びます。



● 法話（法話楽団『迦陵頻伽』西脇顕真 師）

前回の寺報でもご紹介しました。

如来から慈しまれていないのちは一つもないというメッセージが心に響き、きつと暖かい涙が流れるでしょう。沢山の方々と共に涙したく思います。

● 当日、お手伝い頂ける方を募集します

お稚児さんの着替え・誘導係、行列参加者
お非時の調理・配膳係、来賓諸兄弟の接待係、
受付・記念品配布係など、

沢山の方のお力が必要です

ご協力いただきますようお願い申し上げます

ご協力いただいて打ち上げで盛り上がりましょう

● 準備を、お手伝い頂ける方を募集します

準備にもお手伝い頂けると、その分だけ法会が尊くなります

準備の日程をご案内致します。ご参加下さい

十分なお接待はできませんが、打ち上げで盛り上がりましょう

五月二十一日（木）境内・墓地の草取り

二十二日（金）境内・墓地の草取り

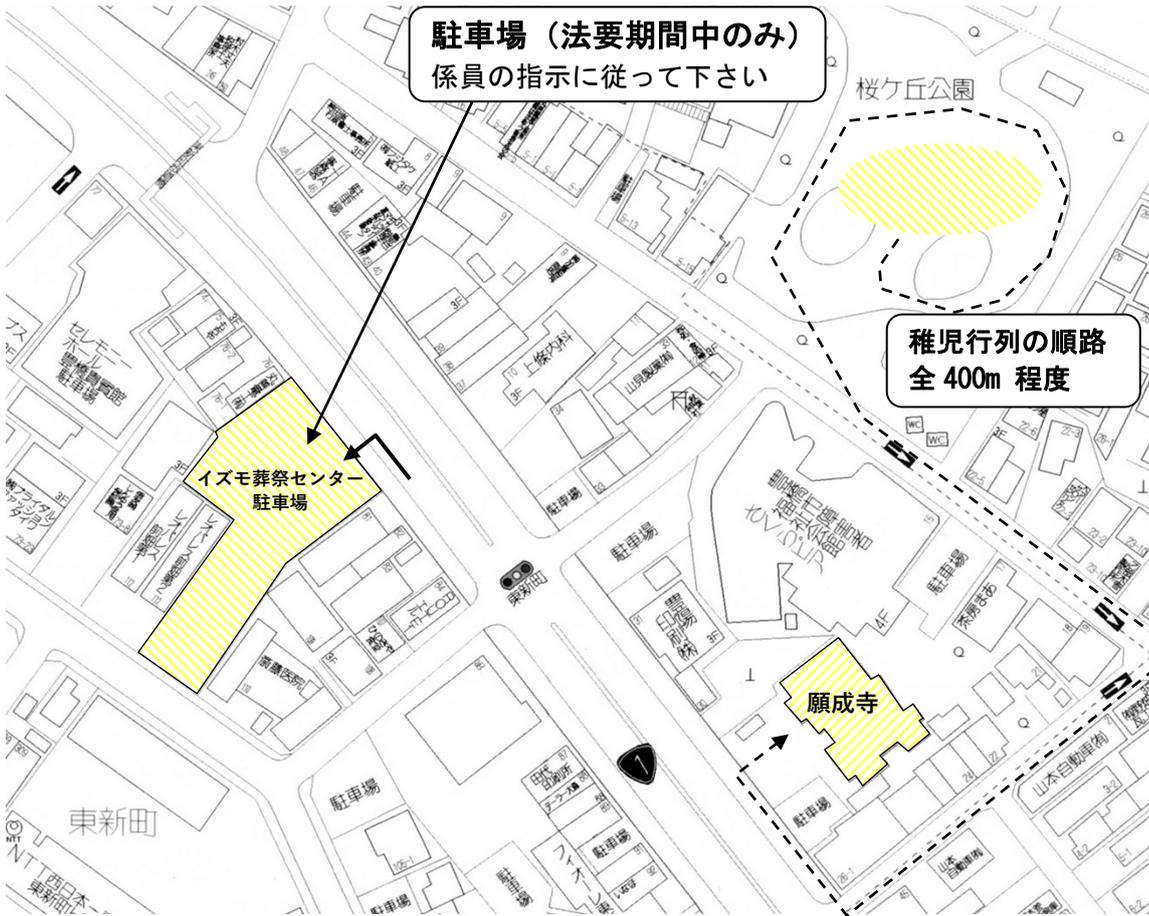
二十三日（土）仏具お磨き

二十七日（水）供餅作成

開始時刻は十時です
宜しくお願い致します

■ 法会中の駐車場

法会期間中は寺の駐車場を来賓・送迎専用と致します。同行の皆様は左図駐車場をご利用下さい。



■ 法会の全日程

● 五月二十九日（金）

- 午後一時より 日中法要・法話
- 午後三時より 速夜法要・法話
- 午後五時より お非時
- 午後六時より 初夜法要・法話

（法話） 柳野 明人 師

親鸞聖人の御生涯を
節談説教風にお話頂きます

● 五月三十日（土）

- 午前十時より 庭儀式（稚児行列）
- 午後〇時より お非時
- 午後一時より 満日中法要・法話

（法話） 法話楽団 迦陵頻伽 師

如来から慈しまれていない
いのちは一つもない
あなたは大切な人です

《迦陵頻伽メッセージ》

↓ 後記 ↓

○ 大掃除の中、先回の御遠忌の資料が出てきました。ガリ版刷りです。大変だっただろうな…、作る苦勞がそのまま伝わります。父と同じ情熱で頑張ってる積りなのに、パソコンとプリンタでは伝わり難いかな？ この五十年、便利になった分だけ伝わり難くなったことが確かにあるようです。お父さん、便利でも苦勞が多くて泣きそうです。見守って下さいね。



願成寺報

平成二十一年九月十五日

〒四四〇・〇八二 豊橋市東新町二十八番地

☎〇五三二・五二・九六〇一

■ 秋季彼岸・永代経法会のご案内

左記により勤修いたします
万障お繰り合わせて お誘い合わせてお参り下さい

九月 二十一日(月・祝) 午後一時 法要のみ

二十二日(火・祝) 午前十時 晨朝法要・法話

午後〇時 お齋(粗飯準備いたします)

午後一時 日中法要・法話

法話 岡崎市 浄泉寺
戸田 恵信 師

二十三日(水・祝) 午前十一時 法要のみ



戸田恵信先生には、五月の御遠忌大法会にて会奉行(法会全体を統括する仕事)の大役をお引き受け頂き、大変お世話になりました。

エネルギーに活躍しておられる先生に憧れますが、そのエネルギーの源は何か?

ご法話にお聞きしたいと思います。

「仲間に遇い直す」

「自分は駄目だなあ」と思う時、その時間が長く続くと、親しい人や守りたい人から順番に鬱陶しくなってきました。「今の自分は違うのだから見ないでくれ」「放っておいてくれ」と大切な人から遠ざけていくことになりそうです。そしてどんどん孤独になっていく。やがてその重圧に耐えかねて「誰も私を解ってくれない」「私ばかりが何で?」と爆発します。家庭の中で起きている数々の事件が報道され、世も末だと思えますが、こんなプロセスから考えれば当り前の出来事なのだと判ります。

「能力」「地位」「財産」を中心とした私の理想と、現実が折り合わない。どちらかを動かす(変える)ことができれば楽なのですが、それが出来ない苦しみはとても深いと思います。「駄目だ」という自覚の中で、その縁を通して出遇える尊さ(仏?)に目覚めなければ、遠ざけてしまった仲間や世界の中に還っていくことは出来ません。逆に、目覚めれば「人倫の嘲りを恥じず」と、他人の評価や結果を気にせず、安心して過ごすことが出来るようになります。

親鸞聖人は、二十九歳までの二十年間、聖なるものを求めて懸命に修行をされました。しかしそれは『いずれの行もおよびがたき身』の想いが募る時間でした。どうにもならない迷いの中で、法然上人の草庵を訪ねられます。専修念仏の教えをご教授頂く中で、私のこのままが、そのまま阿弥陀仏のお慈悲であると実感し慶び、このことを証して過ごすことを「生死出ずべき道(私の生きる意味)」と定められました。

仏は歩みの善し悪しを問わず摂取して下さる。

私は「愚鈍なこの身のまま」お念仏申し安堵して歩んでいこう。

念仏の姿を師教に求め、念仏励む姿にて後の人を導こう。

浄土真宗とは、未来(≡後世、結果)を提示し努力を強いる教えではなく、そのままの今を問い直し、「尊い」と出遇い直すための教えです。

「御遠忌を振り返る」

主に写真にて、五月末の御遠忌大法会を振り返ろうと思います。
御都合合わなかった方々にも、その雰囲気をお伝えできれば幸いです。

法会のDVDや写真を配布しようと思っ
ていますが、三ヶ月半も経っているのに
渉っておりません。年末までに準備
したく思います。

本堂修理御懇志の記念品（風呂敷）
についても、年末をメドにお送りし
ようと思っています。

大法会では本堂に沢山の方にお世話
になりました。本当に、ありがとうございます。



天気が良く
新しい仏旗が映えます
大法会らしいお祝いの
雰囲気となりました



内陣の荘厳です



本堂前受付テント
揃いの祥纏も新調です



釋悠亮デビュー
緊張のため
怖い顔になっています



節談説教 椰野明仁 師
琵琶法師しながら
平家物語も唸って
下さいました



お齋の風景
調理・本堂係の人は
大変でした
和気藹々
料理の評判も上々です



お初夜勤行の風景
21人の合唱は
大迫力となりました



狭い本堂が一杯です



豊橋市内近郊の御住職方
名古屋市内近郊から応援の皆様
本当にお世話になりました



お手伝い頂いた皆さんと一緒に記念写真
 もっと沢山撮っておけば良かった
 働いていて写っていない人
 ゴメンナサイ

お稚児さん用に
 棧橋が設置されました
 130人の稚児さんを
 待ちます

お稚児さんの着替え
 東新町公民館にて

お寺の裏の公園から
 仏旗を先頭に行列です

お稚児さん棧橋を渡る

お稚児さんのお参り

御住職方と記念写真

印刷インクの節約のために小さな写真としました。
 見にくくて申し訳ありません。
 それでも雰囲気は伝わる紙面になったと思います。
 来年五月には高田本山にて
 「御影堂大修理落成慶讃大法会」が勤まります。
 平成二十四年四月には本山の
 「開山聖人七五〇回遠忌報恩大法会」が勤まります。
 皆様と御一緒にお参りしたく思っています。
 御意見をお聞かせ下さい。

雅楽の演奏
 気持ちの良い音でした

満日中法要
 散華の風景です

表白を読んで
 阿弥陀経へと続きます

音楽法話 迦陵頻伽 様
 大勢の人が
 感動し涙しました



■ これからの行事予定

十一月 三日(火・祝) 高田本山団体参拝

高田本山の納骨堂法会に参拝します
豊橋市内・近郊の高田派寺院と共に
バスを借りての日帰り旅行です

平成二十二年度

二月 六日(土)

報恩講

真宗寺院として一番大事な法会です
法縁を通して御開山親鸞聖人の恩徳
を仰ぎます

三月 二十一日(日・祝)

春季彼岸(讚仏会)・永代経法会

仏様の遺徳を讃え 仏を鏡として
私を振り返ります

九月 二十三日(木・祝)

秋季彼岸(讚仏会)・永代経法会

仏様の遺徳を讃え 仏を鏡として
私を振り返ります



高田本山団体参拝について

毎年十一月三日(文化の日)にバスを借りて、
本山の納骨堂法会に参拝しています。

修復成った御影堂にお参りする良いご縁です。
本山納骨されていない方も是非ご参加下さい。
詳細は寺へお訊ね下さい。

・参加費 八千五百円

† 後記 †

○ 夏休みが終わり、寺の小さな坊さんも小学校に通い始めました。

夏休みの終わりはいつも大変です。宿題がやってない!

親も工作などを手伝わされて、ヘトヘトになります。

○ 今年は、作文のみ一日遅れで提出し、なんとかなったようです。

○ 工作を手伝いながらこんな風だったなあ...と想い出します。私も父に工作を手伝ってもらってました。父は器用な人で、良く出来た工作があつて、出来過ぎたものだから、友人に責められた...
今となつては良い思い出です。

○ 「終わりがあるから宿題が出来るのだ」と聞きます。

○ どの子も、宿題をやるのは始めと終わりの十日間に限られるようです。そして、夏休みを人生に例えて「死の縁を身近に感じるようになって、やっと人生の宿題に取り掛かれる。生まれた意味を考え始める。それまでは無理」などと言います。

○ 私は別の観点から夏休みの宿題を想います。

○ 子供には内緒ですが、私は宿題を完納したことがあります。
他の子と同様に、終わりの十日前位から宿題のことは気になり始めるのですが、どうも手につきません。勉強が苦手だった私は、他の子と同じにスパートを掛けても間に合う筈がないのです。

臆病な私は、「間に合わない」が頭の中でグルグルして、「どうしよう、どうしよう」と、ソワソワしながら虚しく五日間位過ぎします。
やがて本当に間に合わなくなつて覚悟が決まります。

○ 「宿題やらなくても命に別状はない。先生は怒り、友達に笑うだろう。親はご飯を一日分位抜くかもしれないが、それだけだ」。

臆病なのに凶々しい変な子供でした。
すると不思議です。スッキリして、宿題に向かうことができました。
こんなことなら、早く覚悟を決めておけばよかつたのに...

○ 「そのままを受け止める覚悟」は確かに必要です。そして、
そこから始める人生が、本当に活きた人生なのかも知れません。